

第 13 節 英 語

第 1 英語科の基本的事項

1 改訂の趣旨

平成 30 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領の改訂に当たり、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申の中で、職業以外の専門教育に関する各教科・科目について、次のような改訂の基本的な考え方が示されている。

職業以外の専門教育に関する各教科・科目についても、専門分野ごとに求められる資質・能力を、関係団体等との間で共有化しつつ、三つの柱を踏まえて各教科・科目の位置付けを明確化し、目標を示すこととする。また、専門教育を主とする学科の特色が一層生かされ、一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばすために、より高度で専門的な学習ができる科目構成に見直すなどの改善を行う。具体的には、例えば、専門教科「英語」においては、高度な発表、討論・議論、交渉等ができる総合的なコミュニケーションの力を高める学習の充実を図る観点から、「ディベート・ディスカッションⅠ」及び「ディベート・ディスカッションⅡ」を設けるなどの改善を行う。

主として専門学科において開設される教科「英語」（以下「英語科」という。）の改訂に当たっては、このほかに、外国語科の改善の基本方針を踏まえて行われた。このような高等学校学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、埼玉県教育委員会は、英語科に係る埼玉県高等学校教育課程編成要領を改訂するものである。

2 改訂の要点

(1) 目標の改善

外国語科に準ずる。

(2) 科目の改善

英語科の全ての科目において、内容等について以下のとおり体系的に構成を整理した。

英語科の目標及び英語に関する各科目の目標を実現するため、「知識及び技能」として「英語の特徴やきまりに関する事項」、「思考力、判断力、表現力等」として「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」を整理した上で、「言語活動及び言語の働きに関する事項」として、「知識及び技能」を活用して「思考力、判断力、表現力等」を身に付けるための具体的な言語活動、言語の働き等を整理した。

また、各科目の構成においては、「話すこと」、「書くこと」における発信力の強化や、高校生の卒業後の進路の多様化などに対応するため、より高度で専門的

な科目を新設した。五つの領域の言語活動やこれらを通じて、五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目として「総合英語Ⅰ」、「総合英語Ⅱ」及び「総合英語Ⅲ」を設定した。また、高度な発表、討論・議論、交渉等を通して「話すこと」、「書くこと」によるコミュニケーションの力を高める学習の充実を図る観点から、「ディベート・ディスカッションⅠ」及び「ディベート・ディスカッションⅡ」、「エッセイライティングⅠ」及び「エッセイライティングⅡ」を設けるなどの改善を行った。

3 英語科の目標及び科目編成

(1) 英語科の目標

外国語科に準ずる。

(2) 科目の編成と履修

英語科に属する科目は、5科目から7科目による構成に変更された。その標準単位数については、埼玉県教育委員会において、次の表のとおり定める。

科 目	標準単位数
総合英語Ⅰ	3～6
総合英語Ⅱ	3～6
総合英語Ⅲ	3～6
ディベート・ディスカッションⅠ	2～6
ディベート・ディスカッションⅡ	2～6
エッセイライティングⅠ	2～6
エッセイライティングⅡ	2～6

・「総合英語Ⅰ」は、英語科において全ての生徒に必ず履修させる。「総合英語Ⅱ」は、原則として「総合英語Ⅰ」又は「英語コミュニケーションⅠ」を履修した後に、「総合英語Ⅲ」は、原則として「総合英語Ⅱ」を履修した後に、それぞれ選択履修させる。

・「ディベート・ディスカッションⅠ」は、英語科において全ての生徒に必ず履修させる。「ディベート・ディスカッションⅡ」は、原則として「ディベート・ディスカッションⅠ」を履修した後に、選択履修させる。

・「エッセイライティングⅠ」は、専門教科の学習において、「書くこと」の活動を中心とした学習を希望する生徒に選択履修させる。「エッセイライティングⅡ」は、原則として「エッセイライティングⅠ」を履修した後に、選択履修させる。

第2 各科目の概要

総論

・各科目の特徴

「総合英語Ⅰ」及び「総合英語Ⅱ」における学習内容は、基本的には「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」の内容と同様であるが、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、より自律的な学習を目指し、「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」より少ない支援の下で学習することとしている。「総合英語Ⅲ」については、「英語コミュニケーションⅢ」を発展させた内容となっている。

「ディベート・ディスカッションⅠ」及び「ディベート・ディスカッションⅡ」では、「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」の内容を参照した上で、スピーチやプレゼンテーションをはじめとして、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。

「エッセイライティングⅠ」及び「エッセイライティングⅡ」では、「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」の内容を参照した上で、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。

・話題について

外国語科に準ずる。

・支援について

外国語科に準ずる。

・使用する語句や文について

外国語科に準ずる。

・言語活動について

外国語科に準ずる。

1 各科目の目標と内容

「総合英語Ⅰ」

(1) 目標

五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を一層伸ばすために、五つの領域の総合的な指導を行う科目である。特に、聞いたり読んだりしたことの概要や要点を目的に応じて捉えたり、多様な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようにすることを目標としている。

基本的には、「英語コミュニケーションⅠ」の内容と同様であるが、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、より自律的な学習を目指し、「英語コミュニケーションⅠ」より少ない支援で目標を達成することとしている。そのため、「英語コミュニケー

ションⅠ」では「多くの支援」を活用しながら目標を達成することを示しているが、本科目では、必要に応じて「一定の支援」を活用することとしている。

ア 聞くこと

(ア) 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

イ 読むこと

(ア) 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

ウ 話すこと[やり取り]

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。

エ 話すこと[発表]

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

オ 書くこと

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

(2) 内容

英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)内容に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように発展、拡充させて取り扱うものとする。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)内容に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

イ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

ウ 話すこと [やり取り]

(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合う活動。また、やり取り

した内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

エ 話すこと [発表]

(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

オ 書くこと

(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に扱うものとする。

総合英語Ⅱ

(1) 目標

「総合英語Ⅰ」よりもさらに、五つの領域の総合的な指導を発展的に行う科目である。特に、聞いたり読んだりしたことの概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、多様な語句や文を目的や場面、状況に応じて適切に使って、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようにすることを目標としている。

基本的には、「英語コミュニケーションⅡ」の内容と同様であるが、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、更に自律的な学習を目指し、「英語コミュニケーションⅡ」より少ない支援で目標を達成することとしている。そのため、「英語コミュニケーションⅡ」では「一定の支援」を活用しながら目標を達成することを示しているが、本科目では、ほとんど支援がなくても課題に取り組むことができる段階へと移行する。

ア 聞くこと

(ア) 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

イ 読むこと

(ア) 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

ウ 話すこと[やり取り]

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝

え合うことができるようにする。

エ 話すこと[発表]

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

オ 書くこと

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(2) 内容

英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「英語コミュニケーションⅡ」の(2)内容に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように発展、拡充させて取り扱うものとする。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)内容に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 「総合英語Ⅰ」及び「英語コミュニケーションⅠ」のそれぞれの(2)内容に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(ア) 日常的话题について、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把

握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(4) 社会的な話題について、説明や討論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

ウ 読むこと

(7) 日常的话题について、新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(4) 社会的な話題について、論説文や報告文などから必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(7) 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(4) 社会的な話題について、説明や討論などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

(7) 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 社会的な話題について、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

(7) 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 社会的な話題について、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、

意見や感想を伝え合ったりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に扱うものとする。

総合英語Ⅲ

(1) 目標

五つの領域の総合的な指導を、生涯にわたる自律的な学習につながるよう発展的に行う科目である。特に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、課題の解決策などを幅広い視点から論理的に詳しく話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようにすることを目標としている。

ア 聞くこと

(7) 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を正確に聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

(4) 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、幅広い視点から、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

イ 読むこと

(7) 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を正確に読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、幅広い視点から、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

ウ 話すこと [やり取り]

(7) 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、課題の解決策などを幅広い視点から論理的に

詳しく話して伝え合うことができるようにする。

エ 話すこと [発表]

(7) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

オ 書くこと

(7) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

(2) 内容

英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「英語コミュニケーションⅢ」の(2)内容に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように発展、拡充させて取り扱うものとする。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)内容に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 「総合英語Ⅰ」及び「総合英語Ⅱ」のそれぞれの(2)内容に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(7) 日常的话题について、インタビューやニュースなどから必要な情報を正確に聞き取り、話の展開や話

し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 社会的な話題について、複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、複数の視点を整理、比較して、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

ウ 読むこと

(7) 日常的话题について、新聞記事や物語などから必要な情報を正確に読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の展開に注意し、課題を解決するために必要な情報を読み取り、複数の視点を整理、比較して、概要や要点、詳細をまとめる活動。また、まとめた内容を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(7) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合い、会話を発展させる活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(4) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、課題の解決策などを複数の情報を整理、比較しながら、明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

(7) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを複数の情報を整理、比較しながら、明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを複数の情報を整理、比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

(7) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを複数の情報を整理、比較しながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落

を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを複数の情報を整理、比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に扱うものとする。

ディベート・ディスカッションⅠ

(1) 目標

「話すこと [やり取り]」の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、ディベートやディスカッションなどの「話すこと」を中心とした発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を行う科目である。資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論を展開することや、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにすることを目標としている。

本科目における学習内容は、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、「論理・表現Ⅰ」の内容を発展させたものとなっている。よって、「話すこと [発表]」や「書くこと」についても適宜扱い、専門科目としてふさわしい内容を扱うことが求められる。

ア 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的话题や社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論を展開することができるようにする。

(イ) 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 内容

英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「論理・表現Ⅰ」の(2)内容に示す事項について、こ

の科目の(1)に示す、話すこと [やり取り] の領域における目標を達成するように取り扱うものとする。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

ア 日常的话题や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして要点、や意図、論理の展開などを明確にしながら、情報や自分自身の考えなどを話して伝え合うこと。

言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的话题や社会的な話題に関する論題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、論証文や英文資料などを読んで、論点を整理するとともに、それらを活用して自説の優位性を示す情報や考えを詳しく話して伝え合ったり、相手の意見に質問や反論したりするディベートをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 日常的话题や社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理するとともに、それらを活用して情報や自分自身の考えを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝えたり、他者の意見に適切に応じたりするディスカッションをする活動。また、議論した内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に扱うものとする。

ディベート・ディスカッションⅡ

(1) 目標

「ディベート・ディスカッションⅠ」よりもさらに、発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を発展的に行う科目である。複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論をすることができることや、他者の意見などに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく話して伝え合うことができるようにすることを目標としている。

本科目における学習内容は、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、「論理・表現Ⅱ」及び

「論理・表現Ⅲ」の内容を発展させたものとなっている。よって、「話すこと〔発表〕」や「書くこと」についても適宜扱い、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。

ア 話すこと〔やり取り〕

(7) 社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、聞き手を説得することができるよう、論理的に一貫性のある議論をすることができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、課題の解決策などについて合意形成をすることができるよう、他者の意見などに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 内容

英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「ディベート・ディスカッションⅠ」の(2)内容と同様に扱うものとする。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「ディベート・ディスカッションⅠ」の(2)内容と同様に扱うものとする。

言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 「ディベート・ディスカッションⅠ」の(2)内容に示す言語活動のうち、「ディベート・ディスカッションⅠ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 話すこと〔やり取り〕

(7) 社会的な話題に関する論題についての複数の論証文や英文資料などを読んで、論点を整理するとともに、それらを活用して自説の優位性を効果的に示したり、相手の議論に応じて、適切な質問や反論をしたりして聞き手を説得するディベートをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(4) 社会的な話題について、複数のスピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点の共通点や相違点を整理、比較するとともに、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合い、他者の意見に適切に応じて最善の解決策をまとめ

るためのディスカッションをする活動。また、議論した内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に扱うものとする。

エッセイライティングⅠ

(1) 目標

「書くこと」の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、複数の段落から成るエッセイなどを書くことを中心とした発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を行う科目である。資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちや、意見や主張などを、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにすることを目標としている。

本科目における学習内容は、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、「論理・表現Ⅰ」の内容を発展させたものとなっている。よって「話すこと〔やり取り〕」や「話すこと〔発表〕」についても適宜扱い、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。

ア 書くこと

(7) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(2) 内容

英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「論理・表現Ⅰ」の(2)内容に示す事項について、この科目の(1)に示す、書くことの領域における目標を達成するように扱うものとする。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、情報や自分自身の考えなどを書いて適切に表

現すること。

言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 書くこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、ニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に取り扱うものとする。

エッセイライティングⅡ

(1) 目標

「エッセイライティングⅠ」よりもさらに、発信力及び論理的な思考力や表現力を強化する指導を発展的に行う科目である。特に、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、意見や主張などを読み手を引きつけたり説得したりできるよう、幅広い視点から論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにすることを目標としている。

本科目における学習内容は、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」の内容を発展させたものとなっている。したがって、「話すこと〔やり取り〕」や「話すこと〔発表〕」についても適宜扱い、専門科目としてふさわしい内容も取り扱うことが求められる。

ア 書くこと

(ア) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを読み手を引きつけたり説得したりできる

よう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、意見や主張などを読み手を引きつけたり説得したりできるよう、幅広い視点から論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(2) 内容

英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「エッセイライティングⅠ」の(2)内容と同様に取り扱うものとする。

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「エッセイライティングⅠ」の(2)内容と同様に取り扱うものとする。

言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 「エッセイライティングⅠ」の(2)内容に示す言語活動のうち、「エッセイライティングⅠ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、複数のニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして、読み手を引きつけたり説得したりできるよう、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数のスピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、読み手を引きつけたり説得したりできるよう、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを複数の情報を整理、比較しながら、効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に取り扱うものとする。

第3 各科目にわたる指導計画の作成と内容 の取扱い

1 指導計画作成上の配慮事項

外国語科に準ずる。

2 内容の取扱いに当たっての配慮事項

外国語科に準ずる。

3 教材についての配慮事項

外国語科に準ずる。